

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 12-005

PDCA	事務事業名	観光振興事業	部課等名	市民経済部 観光課 観光担当	担当	伊藤	
					内線等	327	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第1節 観光・産業の振興					
		基本施策： 1. 観光					
		単位施策： (1) 観光資源の活用					
		個別施策： ①観光資源の充実					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	半田市の観光資源である「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興と地域経済の活性化を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・観光イベントへの支援、グルメによる魅力づくり、おもてなしキャンペーンの充実 ・観光PR各種印刷物の作製、配布 ・蔵のまち見学者用駐車場の確保 ・はんだ市民盆踊り大会実行委員会への補助金、運営支援 など					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①観光PR印刷物数(種類)	25	21	24	種	
		②駐車場用地の借受	1	1	1	か所	
		③観光イベント開催数	8	8	6	回	
		事業費	35,769	31,434	32,913	千円	
		人件費	27,386	18,751	16,812	千円	
		総事業費	63,155	50,185	49,725	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①観光客1人当たりに係るコスト	41	31	30	千円		
	②						
	③						
	成果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①年間観光客数	実績値	1,540	1,625	1,681	千人
			目標値	1,400	1,600	1,630	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	A					
		醸造に関するイベント「醸す博覧会」の開催、鉄道会社との観光プロモーションなど半田市観光の魅力を発信したことにより、年間観光入込客数は目標値を達成することができた。また、半田市観光ガイドをリニューアルしたことや写真スポットに使用できるフォトフレーム及び「HANDA」モニュメントを作成したことにより、半田市をPRすることができた。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	観光客の消費がモノ消費からコト消費へとシフトしているため、半田市ならではの体験企画を造成することや市内飲食店、観光施設をめぐるができる周遊企画を考案し、回遊性の向上と滞在時間の延長を図る。また、引き続き、鉄道会社とタイアップした観光プロモーションを展開し、さらなる誘客を促進する。					
	令和元年度の目標	成果指標	目標値		単位		
		①年間観光客数	1,700		千人		